

会・学術集会,2010.

9) 松下雅和, 建部一夫, 小笠原倫大, 田村直人, 高崎芳成: 肺高血圧症の合併した膠原病症例における治療と予後. 第 54 回日本リウマチ学会総会・学術集会,2010.

10) 山中健次郎, 仲野総一郎, 石山健太郎, 志村右子, 金井美紀, 高崎芳成: 全身性エリテマトーデスの抗 p53 抗体の臨床的特徴. 第 54 回日本リウマチ学会総会・学術集会,2010

11) 渡邊崇, 仲野総一郎, 天野浩文, 森本真司, 戸叶嘉明, 高崎芳成: 急性期 SLE を中心とする異所性リンパ組織の産生及び免疫反応の有無についての検討. 第 54 回日本リウマチ学会総会・学術集会, 2010.

12) 森本真司, 渡邊崇, 天野浩文, 高崎芳成: ループス腎炎におけるタクロリムス療法の効果の検討. 第 54 回日本リウマチ学会総会・学術集会, 2010.

13) 金子俊之, 天野浩文, 安藤誠一郎, 小笠原倫大, 森本真司, 高崎芳成: 抗核抗体陽性かつ KL-6 高値症例の自己抗体プロフィールと血清学的特徴. 第 54 回日本リウマチ学会総会・学術集会,2010.

14) 天野浩文, 天野恵理, 安藤誠一郎, 箕輪健太郎, 森本真司, 戸叶嘉明, 広瀬幸子, 高崎芳成: SLE モデルマウス脾臓辺縁帯 B 細胞形成における補体と B 細胞抗原受容体の関与. 第 54 回日本リウマチ学会総会・学術集会,2010.

15) 安藤誠一郎, 天野浩文, 天野恵理, 渡邊崇, 名切裕, 森本真司, 戸叶嘉明, 林青順, 大辻秀樹, 広瀬幸子, 高崎芳成: FTY720 による BXS B マウスのループス腎炎抑制機序の解析. 第 54 回日本リウマチ学会総会・学術集会,2010.

16) 高崎芳成: 全身性エリテマトーデスー最近の診断と治療ー. 日本内科学会生涯教育講演会, パシフィコ横浜, 横浜, 平成 22 年 5 月 30 日, 2010

17) 高崎芳成: 全身性エリテマトーデスー最近の診断と治療ー. 日本内科学会生涯教育講演会, 石川県立音楽堂, 金沢, 平成 22 年 9 月 12 日, 2010

18) 杉本 郁, 山田里沙, 菱沼留加, 小田啓介, 寶達 桂, 景山倫彰, 河本敏雄, 草生真規雄, 小沼心, 関谷文男, 今 高之, 安田光徳, 建部一夫, 小笠原倫大, 山路 健, 津田裕士, 高崎芳成: 膠原病・リウマチ性疾患に対するアフェレシス療法の

実際と今後の展望. 第 31 回日本アフェレシス学会学術大会, 2010.

19) Kawamoto T, Akiba H, Abe Y, Morimoto S, Yamaji K, Tamura N, Takasaki Y: The Role for TIM-2 in Collagen-Induced Arthritis. 74th Annual Scientific Meeting of American College of Rheumatology, Atlanta, USA, 2010.

H. 知的財産権の出願・登録状況 (予定を含む)

1. 特許取得

該当なし

2. 実用新案登録

該当なし

3. その他

特記すべきことなし

表 1

基礎疾患別発症年齢

	基礎疾患発症 平均年齢(歳)(A)	PH発症 平均年齢(歳)(B)	(A)-(B) (年)
MCTD	39.6	46.6	7.0
SSc	55.5	62.4	6.9
SLE	33.5	44.5	10.0
PM/DM	46.0	53.1	7.1
RA	54.9	61.0	6.1

有意差なし

図 1

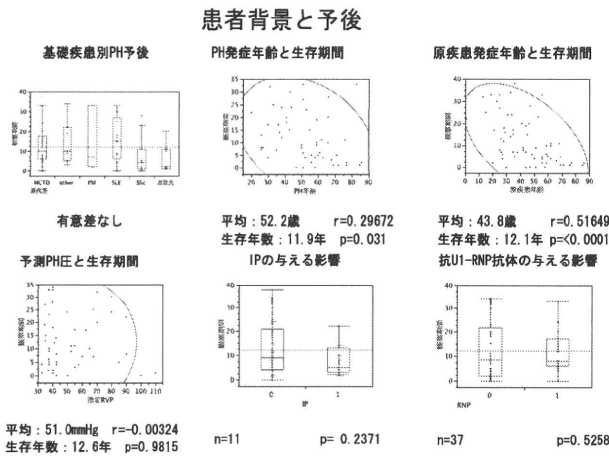


図 2

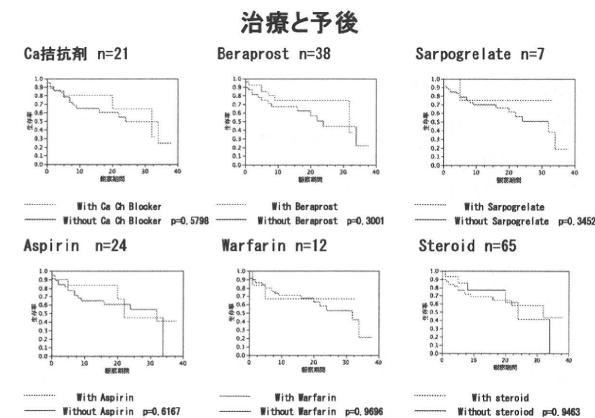


図 3

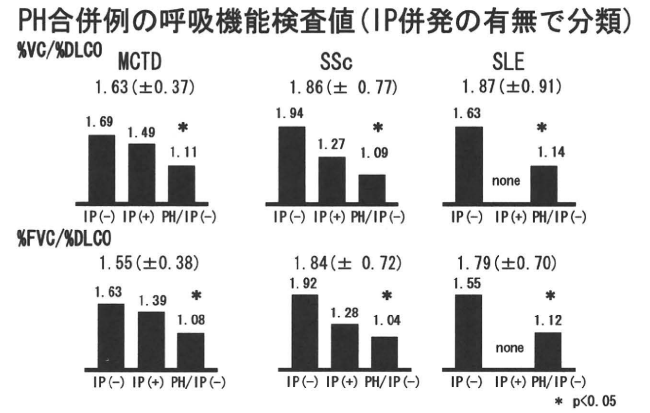
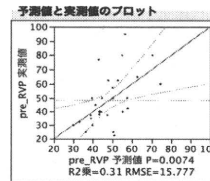


図 4

**BNP値および大動脈径/右肺動脈径を用いた
推定肺動脈圧との相関性の検討**



重回帰分析を行い、BNPとA0/rPAを組み合わせると寄与率は31%になる

予測肺動脈圧 = 77-25.2(大動脈径/右肺動脈径)+0.02BNP
で線形回帰できる可能性がある

膠原病性肺高血圧症患者に対する内科的治療の効果に関する研究(平成 20-22 年度)

研究分担者： 京谷晋吾 国立循環器病センター心臓血管内科・客員研究員

研究要旨

肺高血圧症を合併した膠原病患者の生命予後は著しく不良とされてきたが、近年いくつかの治療薬が開発され一定の効果がみられるようになった。しかし至適用法についての検討は十分でなく、これらの薬剤の効力を未だ十分に活用できていない。本研究では近年開発されたタダラフィルの有効性を検討し、また本剤が長時間作用型薬剤であるところから、本症における長時間作用型薬剤の有用性について検討した。また本症に用いられているプロスタサイクリン持続静注療法、エンドセリン受容体拮抗剤、フォスフォジエステラーゼ拮抗剤の併用療法についても検討した。

タダラフィル高用量群において6分間歩行距離の改善、BNP値の低減がみられた。血行動態においても肺動脈圧の低下、心拍出量の増加、肺血管抵抗の低減がみられた。短時間作用薬シルデナフィルによる治療を行っていた際には薬剤急性効果に伴う副作用である動悸、頭痛、胸部圧迫感などのために十分量の投与が困難であった症例においても、長時間作用型のタダラフィルではそうした副作用は軽減し十分な増量を行うことができ、本症における長時間作用型薬剤の優位性がうかがわれた。エポプロステノール持続静注治療にクラスの異なる薬剤を併用したところ、多くの症例で追加効果が認められた。多剤併用療法の有用性が示唆された。

A. 研究目的

肺高血圧症を合併した膠原病患者の生命予後は著しく不良とされてきたが、近年いくつかの治療薬が開発され一定の効果がみられるようになった。しかし至適用法についての検討は十分でなく、これらの薬剤の効力を未だ十分に活用できていない。本研究では近年開発されたフォスフォジエステラーゼ拮抗剤であるタダラフィルの有効性を検討し、また本剤が長時間作用型薬剤であるところから、本症における長時間作用型薬剤の有用性について検討した。また本症に用いられているプロスタサイクリン持続静注療法、エンドセリン受容体拮抗剤、フォスフォジエステラーゼ拮抗剤の併用療法についても検討した。

B. 方法

(1) フォスフォジエステラーゼ拮抗剤タダラフィルの有効性

対象は肺動脈性肺高血圧症患者9名で、男3名、女6名であった。これらの症例をプラセボ群、少用量

群（2.5または10mg）、高用量群（20または40mg）の3群に分類し二重盲験法により投与を行った。投与法は一日一回朝食後に内服投与することとし、効果は4ヶ月後に判定した。評価項目はNYHA分類の重症度、6分間歩行距離、血中脳性利尿ホルモン（BNP）濃度、および血行動態とした。なおタダラフィルにおいてはボセンタンと体内薬物動態における干渉が見られないとされているので、併用を可とした。

(2) 長時間作用型肺高血圧治療薬の有用性

膠原病性を含む肺動脈性肺高血圧症患者で、短時間作用薬シルデナフィルによる治療を行っていた4名に対し、一日一回服用で有効であるタダラフィルに変更した。治療によるNYHA分類の重症度、副作用症状の変化、心臓超音波検査、血中脳性利尿ホルモン（BNP）濃度を測定し比較した。

(3) エポプロステノールを中心とした多剤併用療法の効果に関する研究

対象は膠原病患者を含む重症の肺動脈性肺高血圧症患者21例である。用いた薬剤は注射用プロスタサイクリン製剤エポプロステノール、エンドセリン

受容体拮抗剤ボセンタン、フォスフォジエステラーゼ阻害剤シルデナフィルである。エポプロステノール治療中にボセンタンを追加した症例が16名(1群)、エポプロステノール治療中にシルデナフィルを追加した症例が5名(2群)、三剤全て併用した症例はなかった。いずれもエポプロステノール単独治療によっても十分な効果が得られず、他剤を併用した。評価項目は肺高血圧に見られる自覚症状、心臓カテーター検査により測定した肺動脈平均圧、心拍出量、肺血管抵抗、6分間歩行距離、血清脳性利尿ホルモン(BNP)値とした。

C. 結果

(1) フォスフォジエステラーゼ拮抗剤タダラフィルの有効性

プラセボ群、少用量群、高用量群において6分間歩行距離はそれぞれ315mから387m、288mから301m、351mから481mへ、BNPは37 pg/mlから65pg/mlへ、198 pg/mlから287 pg/mlへ、192 pg/mlから135 pg/mlへと変化した。高用量群において6分間歩行距離の改善、BNP値の低減がみられた。血行動態においては肺動脈平均圧は66 mmHgから60mmHgへ、34 mmHgから35mmHgへ、57 mmHgから52mmHgへ、心拍出量は3.4 l/分から2.8 l/分へ、2.6 l/分から2.6 l/分へ、3.6 l/分から3.8 l/分へ、肺血管抵抗は2,100 dynes・sec/cm⁵から1,900 dynes・sec/cm⁵、680 dynes・sec/cm⁵から680 dynes・sec/cm⁵、1,300 dynes・sec/cm⁵から1,000 dynes・sec/cm⁵へと変化した。やはり高用量群において肺動脈圧の低下、心拍出量の増加、肺血管抵抗の低減がみられた。

投与開始後数日間、顔面紅潮や頭痛、筋肉痛をきたした症例が見られたが、その程度は軽微で、服薬を続けても数日以内に消失した。ボセンタン治療患者にシルデナフィルを投与すると肝障害が見られることがあるが、そうした例はなかった。

(2) 長時間作用型肺高血圧治療薬の有効性

短時間作用薬シルデナフィルによる治療を行っていた際には薬剤急性効果に伴う副作用である動悸、頭痛、胸部圧迫感のために十分な増量が果たせずにいた。タダラフィルへ変更した後はそうした副作用は軽減し、十分な増量を行うことができた。心臓超音波検査での推定肺動脈圧は120.5mmHgから

73.5mmHgへと低下し、BNPも328.9pg/mlから138.1pg/mlへと改善がみられた。

(3) エポプロステノールを中心とした多剤併用療法の効果に関する研究

(1群) エポプロステノール治療中にボセンタンを追加した症例

治療開始前、エポプロステノール治療後、ボセンタン追加後の状態は、血行動態では肺動脈平均圧は70.4±12.7mmHgから66.8±17.5mmHg、62.5±13.8mmHgと追加的効果が認められ、心拍出量も2.2±0.4l/分から3.1±1.1/分、3.3±0.8/分へと増加した。肺血管抵抗は2521±590dynessec/cm⁵から1778±719dynessec/cm⁵、1544±663dynessec/cm⁵へと著明に減少していた。6分間歩行距離は358±65mから446±101、448±81mと増加した。BNPは669±312pg/mlから477±302pg/ml、260±178pg/mlと減少した。

(2群) エポプロステノール治療中にシルデナフィルを追加した症例

治療開始前、エポプロステノール治療後、シルデナフィル追加後の状態は、血行動態では肺動脈平均圧は53.3±6.9mmHgから52.0±1.6mmHg、52.7±4.2mmHg、心拍出量も3.0±0.4l/分から2.9±0.5/分、3.0±0.8/分、肺血管抵抗は1229±160dynessec/cm⁵から1361±401dynessec/cm⁵、1269±426dynessec/cm⁵へと顕著な追加的効果は見られなかった。6分間歩行距離も408±107mから243±284、300±275m、BNPは515±221pg/mlから570±287pg/ml、352±358pg/mlとあきらかな改善はみられなかった。

D. 考察

肺動脈性肺高血圧症に対し経口フォスフォジエステラーゼ阻害剤であるタダラフィルは用量依存性の肺高血圧改善効果がみられた。長時間作用型薬剤においては、肺高血圧治療薬に共通してみられる服用後の頭痛、顔面紅潮、動悸、胸部圧迫感など急性血管拡張作用に基づく副作用が軽減され、忍容性が向上し、ひいては高用量治療の導入が容易であった。その結果と考えられる治療効果の増強が観察された。

注射用プロスタサイクリン製剤エポプロステノールの持続静注治療は肺動脈性肺高血圧症において、血行動態や運動耐容能に顕著な効果をもたらす

ことが知られているが、十分な効果が得られない症例もみられる。こうした症例にボセンタンやシルデナフィルを追加投与したところ、ボセンタンにおいては概ね相加的効果が見られた。シルデナフィルの場合には著効する症例がみられる反面、ほとんど追加的効果の見られない症例が多く、有意な改善はみられなかった。今後更に至適投与量や追加時期、三剤全て併用した場合の効果などを検討してゆかねばならない。

E. 結論

難治性で予後不良とされてきた膠原病に伴う肺高血圧症に対して有効な薬剤が登場した。単独治療により十分に改善する症例もあるが、多くの症例においては不十分であった。そうした症例に対し内服可能な長時間作用型薬剤はより有効であると考えられた。またプロスタサイクリン持続静注療法は単独治療においても効果の高い治療とされてきたが、クラスの異なる薬剤を併用することにより効果が高まり、多剤併用療法の有効性がうかがわれた。今後もより有効性の高い使用法について検討されて

行くことが必要である。

F. 健康危険情報

なし

G. 研究発表

1. 論文発表

1. 京谷晋吾: 肺動脈性肺高血圧症の治療概論. 循環器内科 67: 482-486, 2010
2. 京谷晋吾: タダラフィルの使用経験. 治療学 44: 59-61, 2010
3. 京谷晋吾: 肺高血圧症の治療について. 心エコー 12: 126-131, 2011

2. 学会発表

なし

H. 知的財産権の出願・登録状況

なし

混合性結合組織病生体試料バンクの構築およびそれを利用した疾患関連遺伝子の全ゲノム解析

研究代表者： 三森 経世 京都大学大学院医学研究科内科学講座臨床免疫学・教授
研究協力者： 大村浩一郎 京都大学大学院医学研究科内科学講座臨床免疫学・院内講師

研究要旨

混合性結合組織病（MCTD）およびその合併症の病因、病態研究材料として、末梢血DNA、血清、および生検材料などの生体試料を採取し保存する生体試料バンクを構築した。これらの試料には連結可能匿名化をほどこした詳細な臨床情報が含まれている。研究分担を行う希望者には生体試料の一部および臨床情報を提供することが可能である。これまでに、MCTD患者および抗U1RNP抗体陽性膠原病患者の試料（DNAおよび血清/血漿）がそれぞれ88例と160例収集された。また、収集したDNA検体を用いて全ゲノム関連解析によるMCTDの疾患関連遺伝子検索を行う準備がほぼ整った。MCTDのような比較的希少な疾患の場合、生体試料バンクは今後の研究に非常に有用である。それを用いた全ゲノムSNPタイピングと関連解析においてMCTDの発症や肺高血圧症合併に関係する遺伝子多型（SNP）を見つけ出すことができれば、将来のテーラーメイド医療や新規治療開発の基礎を作ることができる可能性がある。

A. 研究目的

混合性結合組織病（MCTD）は臨床的に全身性エリテマトーデス（SLE）、強皮症（SSc）、筋炎（PM）様症状を合わせ持ち、血清中の抗U1RNP抗体高力価陽性を特徴とする疾患である。

以前の近藤班（混合性結合組織病の病態、治療と関連する遺伝的因子、自己抗体の研究。平成11-16年度）において、班のプロジェクト研究として抗U1RNP抗体陽性で無治療の膠原病患者188例を登録し、その臨床症状、検査所見、自己抗体、HLAのDNAタイピングを含むデータベースを構築させた。うち142例については、血清とDNAを一括して保存し、研究班で使用できるように整備されている。その142例はMCTD基準に合致するMCTD確診例82例と非診断例（SLEなど他の抗U1RNP抗体陽性例が含まれる）60例であり、平成17年度からの本研究班でも活用されている。

しかし、このデータベースと生体試料は、主に抗U1RNP抗体陽性の初診患者から得られたものであり、特にMCTDの予後規定因子である肺動脈性肺高血圧症（PAH）を合併した症例については必ずしも充分でない。本研究班では、多施設共同プロジェク

ト研究として「抗U1RNP抗体陽性膠原病患者の肺動脈性肺高血圧症に対する副腎皮質ステロイド療法の検討」を行っている。本研究は最新のPAH治療ガイドライン作成のための前向き研究であるが、患者により必ずしも治療反応性は一定していない。そのために、いかなる患者サブセットで治療反応性がよいのかなどを明確にする目的で血清学的・遺伝的指標を追加検討することは重要と考えた。すなわち本プロジェクト研究をより充実させるため積極的に生体試料を採取することは難治性病態の研究を行う上で必要である。また京都大学では、MCTDで認められることが多い無菌性髄膜炎などの中枢神経症状を呈した患者の急性期血清と脳脊髄液を患者同意のもとに保存し、これらの試料を用いた研究成果を示してきた（研究分担者：藤井隆夫）。さらに、分担研究にはNOS2遺伝子多型によるMCTDのPAH発症予測（川口）、HEXIM1によるPAHおよび右心肥大進展の分子機構（田中）、血管関連マーカーによるPAHの診断と病態解析（岡田）、新たな自己抗体の探索（澤井、三森）など生体試料を必要とする研究が多く、単独施設での生体試料採取には限界がある。今後、当初の計画で想定していた目的に到達

するためには、これらのMCTD予後に関連する難治性病態を多施設で研究・検討するための患者生体試料バンクの構築は重要と考え、その整備を開始することとした。また、集められた資料のうちDNA検体を用いてMCTDの病因としての疾患関連遺伝子検索を行うことを目的とした。

B. 方法

1. MCTD生体試料バンクの整備

研究代表者および分担研究者の所属施設のMCTD患者より文書によるインフォームドコンセントのもとに末梢血DNA、血清、髄液、胸水、および生検材料などの生体試料を採取し、冷凍保存する。試料の採取に当たっては連結可能匿名化を行う。試料は研究代表者（京都大学大学院医学研究科臨床免疫学）の専用の冷凍庫に保管し、管理者が施錠する。臨床データはやはり匿名化し、管理者が外部と接続していない専用のコンピューターを使用し外部記憶装置に記録させ、そのメディアは鍵をかけて厳重に保管する。研究分担を行う希望者には試料の一部ずつを提供する。

2. MCTDの疾患関連遺伝子の検索

MCTD患者および抗U1RNP抗体陽性膠原病患者のDNAを用い、DNAチップ（Illumina Human610-Quad[®]を用いる予定）を用いて全ゲノムSNPタイピングを行う。DNAのSNPタイピングおよび得られたデータの関連解析は京都大学疾患ゲノムセンターと共同で行う。絞られた候補遺伝子の関連確認を別コホートの検体を用いてTaqMan allelic discrimination法でタイピングを行い、Fisher正確検定などによる関連解析を行う。

また、既に我々が行った計990例のRAと1241例の健常人による全ゲノム関連解析のデータを対象として、MCTD固有の疾患関連遺伝子の検索を行う。

C. 結果

研究代表者が所属する京都大学医学部医の倫理委員会に本研究計画を申請し、承認を得た（第G351号、平成22年4月26日承認）。この承認を受けてMCTD検体の収集に着手したところである。現在、分担研究施設において倫理委員会を通していただいております。一部の研究機関ではすでに試料収集が始まって

いる。

以前の近藤班（混合性結合組織病の病態、治療と関連する遺伝的因子、自己抗体の研究。平成11-16年度）において収集し保存されていた抗U1RNP抗体陽性膠原病患者のDNA157検体と血清139検体は、北里大学より当研究班へ移管を行い、生体試料バンクに統合した。

これまでに合計MCTD88例、抗RNP抗体陽性膠原病160例のDNAが収集され、またそれぞれ86例、158例の血清または血漿が収集されている。PAH合併例は20例であった。今後、MCTDとして200例以上の生体試料収集を目指す。

本年度は研究班全体としてDNA検体を利用したMCTDの疾患関連遺伝子検索のための検体収集が始まり、全ゲノム関連解析（GWAS）のための遺伝子タイピングのチップを購入した。十分な数の検体が集まり次第、MCTDの疾患関連遺伝子の解析を遂行する予定である。

D. 考察

MCTDの病因および病態研究に役立てるための生体試料バンクが稼働始めた。個々の分担研究で患者生体試料を用いる場合には、単独施設では検体数が限られるばかりでなく、患者の偏在や診断のバイアスがかかりがちであり、生体試料バンクはかかる研究の遂行に有用と考えられる。

近年、ヒトの全ゲノム配列が解読されたのち、遺伝子多型情報の蓄積とテクノロジーの急速な進歩により、全ゲノム一塩基多型（SNP）をもちいた関連解析を比較的容易に行うことが可能となり、関節リウマチ（RA）や全身性エリテマトーデス（SLE）の原因遺伝子が数多く見つかってきている。これらの中には予想された遺伝子も含まれるが、免疫と一見無関係に見える予想外の遺伝子も多く含まれ、そこから新たな原因究明につながる発見も少なくない。そこで、我々はMCTDやその合併症に関連する遺伝子の検索を行うため、MCTD患者のGWASを行うことを計画した。本研究はMCTDのDNAを含む生体試料バンクを設立することで、比較的稀な疾患であるMCTDの患者検体を全国規模で収集し、健常人や他の膠原病を対照としたGWASを行うことによりMCTDおよびその合併症の原因究明をゲノムレベル

で行うものである。MCTDの遺伝的要因においては、これまでHLAとの関連が報告されているが、非MHC遺伝子との関連の報告はほとんどない。また、家族性肺高血圧症の原因遺伝子は報告されているが、孤発性または膠原病性肺高血圧症における関連遺伝子も報告は少なく、これまでGWAS解析はなされていない。

GWASによりMCTDおよびその合併症の原因が明らかとなる可能性があり、その結果としてより深い病態の理解、新規治療法につながる可能性がある。

E. 結論

MCTDの病因および病態研究に役立てるための生体試料バンクが稼動を始めた。全ゲノムSNPタイピングと関連解析によりMCTDの発症やPAH合併に関係する遺伝子多型を見つけるべく、その準備がほぼ整った。今後そこから得られた遺伝子情報により深い病態の理解につながるとともに、将来のテーラーメイド医療や新規治療開発の基礎を作ることができる可能性がある。

F. 健康危険情報

なし

G. 研究発表

2. 論文発表

1) Fujita Y, Fujii T, Nakashima R, Tanaka M, Mimori T. Aseptic meningitis in mixed connective tissue disease: cytokine and anti-U1RNP antibodies in cerebrospinal fluids from two different cases. *Mod Rheumatol*. 18(2):184-8, 2008.

2) Jin ZX, Mimori T, et al: Impaired TCR signaling through dysfunction of lipid rafts in sphingomyelin synthase 1 (SMS1)-knockdown T cells. *Int Immunol* 20(11): 1427-37, 2008.

3) Satoh T, Ishikawa O, Ihn H, Endo H, Kawaguchi Y, Sasaki T, Goto D, Takahashi K, Takahashi H, Misaki Y, Mimori T, Muro Y, Yazawa N, Sato S, Takehara K, Kuwana M: Clinical usefulness of anti-RNA polymerase III antibody measurement by enzyme-linked immunosorbent assay. *Rheumatology (Oxford)* 48(12):1570-4, 2009.

4) Fujii T, Okada M, Fujita Y, Sato T, Tanaka M, Usui T, Umehara H, Mimori T: Vaccination with autoreactive CD4(+)Th1 clones in lupus-prone MRL/Mp-Fas(lpr/lpr) mice. *J Autoimmun*. 33(2):125-34, 2009.

5) Ito Y, Usui T, Kobayashi S, Iguchi-Hashimoto M, Ito H, Yoshitomi H, Nakamura T, Shimizu M, Kawabata D, Yukawa N, Hashimoto M, Sakaguchi N, Sakaguchi S, Yoshifuji H, Nojima T, Ohmura K, Fujii T, Mimori T: Gamma/delta T cells are the predominant source of interleukin-17 in affected joints in collagen-induced arthritis, but not in rheumatoid arthritis. *Arthritis Rheum*. 60(8):2294-303, 2009.

6) Kyogoku C, Morinobu A, Nishimura K, Sugiyama D, Hashimoto H, Tokano Y, Mimori T, Terao C, Matsuda F, Kuno T, Kumagai S. Lack of association between tyrosine kinase 2 (TYK2) gene polymorphisms and susceptibility to SLE in a Japanese population. *Mod Rheumatol*. 19(4):401-6, 2009.

7) Nakashima R, Imura Y, Kobayashi S, Yukawa N, Yoshifuji H, Nojima T, Kawabata D, Ohmura K, Usui T, Fujii T, Okawa K, Mimori T: The RIG-I-like receptor IFIH1/MDA5 is a dermatomyositis-specific autoantigen recognized by anti-CADM-140 antibody. *Rheumatology (Oxford)* 49(3):433-40, 2010.

8) Yamaguchi H, Fujimoto T, Nakamura S, Ohmura K, Mimori T, Matsuda F, Nagata S. Aberrant splicing of milk fat globule EGF factor 8 gene in human systemic lupus erythematosus. *Eur J Immunol*. 40(6): 1778-1785, 2010.

9) Kochi Y, Okada Y, Suzuki A, Ikari K, Terao C, Takahashi A, Yamazaki K, Hosono N, Myouzen K, Tsunoda T, Kamatani N, Furuichi T, Ikegawa S, Ohmura K, Mimori T, Matsuda F, Iwamoto T, Momohara S, Yamanaka H, Yamada R, Kubo M, Nakamura Y, Yamamoto K: A regulatory variant in CCR6 is associated with rheumatoid arthritis susceptibility. *Nat Genet* 42(6):515-9, 2010.

10) Hashimoto M, Hirota K, Yoshitomi H, Maeda S, Teradaira S, Akizuki S, Prieto- Martin P, Nomura T, Sakaguchi N, Köhl J, Heyman B, Takahashi M, Fujita T, Mimori T, Sakaguchi S. Complement drives Th17 cell differentiation and triggers autoimmune arthritis. *J*

Exp Med 207(6):1135-43, 2010.

11) Hoshino K, Muro Y, Sugiura K, Tomita Y, Nakashima R, Mimori T: Anti-MDA5 and anti-TIF1 antibodies have clinical significance for patients with dermatomyositis. *Rheumatology (Oxford)* 49(9):1726-33, 2010.

12) Tanaka M, Murakami K, Ozaki S, Imura Y, Tong XP, Watanabe T, Sawaki T, Kawanami T, Kawabata D, Fujii T, Usui T, Masaki Y, Fukushima T, Jin ZX, Umehara H, Mimori T: DIP2 disco-interacting protein 2 homolog A (*Drosophilla*) is a candidate receptor for follistatin-related protein/follistatin-like 1. Analysis of their binding with TGF- β superfamily proteins. *FEBS J.* 277(20): 4278- 89, 2010.

13) Ohmura K, Terao C, Maruya E, Katayama M, Matoba K, Shimada K, Murasawa A, Honjo S, Takasugi K, Tohma S, Matsuo K, Tajima K, Yukawa N, Kawabata D, Nojima T, Fujii T, Yamada R, Saji H, Matsuda F, Mimori T. Anti-citrullinated peptide antibody-negative RA is a genetically distinct subset: a definitive study using only bone-erosive ACPA-negative rheumatoid arthritis. *Rheumatology (Oxford)*. 49(12): 2298-2304, 2010.

14) Kang EH, Nakashima R, Mimori T, Kim J, Lee YJ, Lee EB, Song YW: Myositis autoantibodies in Korean patients with inflammatory myositis: Anti-140-kDa polypeptide antibody is primarily associated with rapidly progressive interstitial lung disease independent of clinically amyopathic dermatomyositis. *BMC Musculoskelet Disord.* 11(1):223, 2010.

15) Sato T, Fujii T, Yokoyama T, Fujita Y, Imura Y, Yukawa N, Kawabata D, Nojima N, Ohmura K, Usui T, Mimori T: Anti-U1 RNP antibodies in cerebrospinal fluid are associated with central neuropsychiatric manifestations in systemic lupus erythematosus and mixed connective tissue disease. *Arthritis Rheum.* 62(12): 3730-40, 2010.

3. 学会発表

1) Ito Y, Mimori T, et al: Gamma delta T cells are the predominant IL-17-producing cells in affected joints of collagen-induced arthritis. 第38回日本免疫学会, 京都, 2008年12月

2) Murakami K, Mimori T, et al: Follistatin-Related Protein (FRP/FSTL1) is one of the regulators of IL-6 production in fibroblast-derived cell lines. 第38回日本免疫学会, 京都, 2008年12月

3) Murakami K, Mimori T, et al: Correlation between anti-CCP antibody and disease activity in patients with early rheumatoid arthritis. 72nd American College of Rheumatology, San Francisco, Oct 2009.

4) Terao C, Ohmura K, Mimori T, et al: Identification of a novel genetic determinant of rheumatoid arthritis at chromosome 18q by a genome-wide association study (GWAS) approach using large-scale Japanese cohorts. EULAR2009, Copenhagen, 2009.6.

5) Takano K, Ohmura K, T. Mimori, et al: Two cases of adult TRAPS (tumor necrosis factor-associated periodic syndrome) treated with etanercept. International Conference on Inflammation, Tokyo, 2009.7.8.

6) 片山昌紀、大村浩一郎、三森経世ほか: SLE病態におけるTNFRSF1A遺伝子変異 (T61I) の関与. 第37回日本臨床免疫学会、東京、2009.11.

7) Yukawa N, Ohmura K, Mimori T, et al. Correlation of antinuclear antibodies and anti-DNA antibodies with clinical response to infliximab in patients with rheumatoid arthritis. EULAR, Rome, June 2010.

8) Ohmura K, Mimori T, et al: HLA-DR8 is associated with ACPA-negative RA in Japanese (Oral presentation). 第14回国際免疫会議、神戸、2010年8月

G. 知的財産権の出願・登録状況

なし

III. 研究成果の刊行に関する一覧表
(平成20年度～22年度)

研究成果の刊行に関する一覧表(平成 20-22 年度)

論文・雑誌

発表者氏名	論文タイトル名	発表誌名	巻号	ページ	出版年
Nakashima R, Imura Y, Kobayashi S, Yukawa N, Yoshifuji H, Nojima T, Kawabata D, Ohmura K, Usui T, Fujii T, Okawa K, <u>Mimori T</u>	The RIG-I-like receptor IFIH1/MDA5 is a dermatomyositis-specific autoantigen recognized by anti-CADM-140 antibody.	Rheumatology (Oxford)	49(3)	433-440	2010
Higashi T, Nakayama T, Fukuhara S, Yamanaka H, <u>Mimori T</u> , Ryu J, Yonenobu K, Murata N, Matsuno H, Ishikawa H, Ochi T	Opinions of Japanese rheumatology physicians regarding clinical practice guidelines.	Int J Qual Health Care	22(2)	78-85	2010
Ishikawa Y, Yukawa N, Ohmura K, Hosono Y, Imura Y, Kawabata D, Nojima T, Fujii T, Usui T, <u>Mimori T</u>	Etanercept-induced anti-Jo-1-antibody-positive polymyositis in a patient with rheumatoid arthritis: a case report and review of the literature.	Clin Rheumatol	29(5)	563-566	2010
Ichikawa Y, Saito T, Yamanaka H, Akizuki M, Kondo H, Kobayashi S, Oshima H, Kawai S, Hama N, Yamada H, <u>Mimori T</u> , Amano K, Tanaka Y, Matsuoka Y, Yamamoto S, Matsubara T, Murata N, Asai T, Suzuki Y	Clinical activity after 12 weeks of treatment with nonbiologics in early rheumatoid arthritis may predict articular destruction 2 years later.	J Rheumatol	37(4)	723-729	2010
Shoji T, Bando T, Fujinaga T, Okubo K, Yukawa N, <u>Mimori T</u> , Date H	Living-donor lobar lung transplantation for interstitial pneumonia associated with dermatomyositis.	Transpl Int	23(5)	e10-1	2010
Yamaguchi H, Fujimoto T, Nakamura S, Ohmura K, <u>Mimori T</u> , Matsuda F, <u>Nagata S</u>	Aberrant splicing of milk fat globule EGF factor 8 gene in human systemic lupus erythematosus.	Eur J Immunol	40(6)	1778-1785	2010
Kochi Y, Okada Y, Suzuki A, Ikari K, Terao C, Takahashi A, Yamazaki K, Hosono N, Myouzen K, Tsunoda T, Kamatani N, Furuichi T, Ikegawa S, Ohmura K, <u>Mimori T</u> , Matsuda F, Iwamoto T, Momohara S, Yamanaka H, Yamada R, Kubo M, Nakamura Y, Yamamoto K	A regulatory variant in CCR6 is associated with rheumatoid arthritis susceptibility.	Nat Genet	42(6)	515-519	2010
Hashimoto M, Hirota K, Yoshitomi H, Maeda S, Teradaira S, Akizuki S, Prieto-Martín P, Nomura T, Sakaguchi N, Köhl J, Heyman B, Takahashi M, Fujita T, <u>Mimori T</u> , Sakaguchi S	Complement drives Th17 cell differentiation and triggers autoimmune arthritis.	J Exp Med	207(6)	1135-1143	2010
Tanaka Y, Takeuchi T, <u>Mimori T</u> , Saito K, Nawata M, Kameda H, Nojima T, Miyasaka N, Koike T	for the RRR study investigators. Discontinuation of infliximab after attaining low disease activity in patients with rheumatoid arthritis: RRR (remission induction by Remicade in RA) study.	Ann Rheum Dis	69(7)	1286-1291	2010
Yokoyama T, Usui T, Kiyama K, Terao C, Nakashima R, Yukawa N, Kawabata D, Nojima T, Ohmura K, Fujii T, <u>Mimori T</u>	Two cases of late-onset drug-induced lupus erythematosus caused by ticlopidine in elderly men.	Mod Rheumatol	20(4)	405-409	2010
Fujimura T, Yukawa N, Nakashima R, Imura Y, <u>Kawabata D</u> , Nojima T, Ohmura K, Fujii T, Usui T, <u>Mimori T</u>	Periodic fever and erythema nodosum associated with MDS with trisomy 8: Report of two cases and review of the literature.	Mod Rheumatol	20(4)	413-419	2010
Tanaka M, Murakami K, Ozaki S, Imura Y, Tong XP, Watanabe T, Sawaki T, Kawanami T, Kawabata D, Fujii T, Usui T, Masaki Y, Fukushima T, Jin ZX, Umehara H, <u>Mimori T</u>	DIP2 disco-interacting protein 2 homolog A (Drosophilla) is a candidate receptor for follistatin-related protein/follistatin-like 1. Analysis of their binding with TGF- β superfamily proteins.	FEBS J	277(20)	4278-4289	2010
Nakashima R, <u>Mimori T</u>	Clinical and pathophysiological significance of myositis-specific autoantibodies and myositis-associated antibodies.	Int J Clin Rheumatol.	5(5)	523-536	2010
Ohmura K, Terao C, Maruya E, Katayama M, Matoba K, Shimada K, Murasawa A, Honjo S, Takasugi K, Tohma S, Matsuo K, Tajima K, Yukawa N, Kawabata D, Nojima T, Fujii T, Yamada R, Saji H, Matsuda F, <u>Mimori T</u>	Anti-citrullinated peptide antibody-negative RA is a genetically distinct subset: a definitive study using only bone-erosive ACPA-negative rheumatoid arthritis.	Rheumatology (Oxford)	49(12)	2298-2304	2010

Kang EH, Nakashima R, <u>Mimori T</u> , Kim J, Lee1 YJ, Lee EB, Song YW	Myositis autoantibodies in Korean patients with inflammatory myositis: Anti-140-kDa polypeptide antibody is primarily associated with rapidly progressive interstitial lung disease independent of clinically amyopathic dermatomyositis.	BMC Musculoskelet Disord	11(1)	223	2010
Sato T, Fujii T, Yokoyama T, Fujita Y, Imura Y, Yukawa N, Kawabata D, Nojima N, Ohmura K, Usui T, <u>Mimori T</u>	Anti-U1 RNP antibodies in cerebrospinal fluid are associated with central neuropsychiatric manifestations in systemic lupus erythematosus and mixed connective tissue disease.	Arthritis Rheum	62(12)	3730-3740	2010
川端大介、三森経世	最近の膠原病学の発展	Clinical Neuroscience	28(2)	146-148	2010
村上孝作、三森経世	早期リウマチ診断基準	日本医事新報	4479	92-93	2010
三森経世	薬物療法の変遷	総合リハビリテーション	38(3)	221-225	2010
川端大介、三森経世	最近の膠原病学の発展	Clinical Neuroscience 別冊	28(2)	146-148	2010
三森経世	その他自己抗体(抗シトルリ化タンパク抗体、抗カルパスタチン)	日本臨床-	68(5)	252-257	2010
川端大介、三森経世	エプラズマブ	分子リウマチ治療	3(2)	88-91	2010
三森経世	自己抗体測定法と自己抗原分析の進歩	日本臨床増刊号 広範囲血液・尿検査 免疫学的検査-その数値をどう読むか第7版	68(増刊号6)	479-484	2010
三森経世	抗環状シトルリ化ペプチド(CCP)抗体	日本臨床増刊号 広範囲血液・尿検査 免疫学的検査-その数値をどう読むか第7版	68(増刊号6)	491-494	2010
三森経世	抗U3RNP(fibrillarin)抗体と抗7-2RNP(Th/To)抗体	日本臨床増刊号 広範囲血液・尿検査 免疫学的検査-その数値をどう読むか第7版	68(増刊号6)	565-568	2010
湯川尚一郎、三森経世	ACR2008 recommendation からみた治療戦略	医学のあゆみ	234(1)	30-36	2010
湯川尚一郎、三森経世	抗リウマチ薬の切り替え・追加のタイミング	Modern Physician	30(8)	1085-1088	2010
三森経世	膠原病の免疫異常と自己抗体	臨床と研究	87(9)	1190-1195	2010
三森経世	自己抗体の最新知見	カレントセラピー	28(10)	891-896	2010
三森経世	膠原病-その入り口から慢性期まで血液所見	診断と治療	98(10)	1587-1593	2010
片山昌紀、三森経世	全身性硬化症・混合性結合組織病	日本内科学会雑誌	99(10)	2407-2413	2010
細野祐司、湯川尚一郎、三森経世	早期診断・早期治療は可能か	治療学	44(10)	1075-1080	2010
Sato H, Ishikawa O, Ihn H, Endo H, Kawaguchi Y, Sasaki T, Goto D, Takahashi K, Takahashi H, Misaki Y, <u>Mimori T</u> , Muro Y, Yazawa N, Sato S, Takehara K, Kuwana M	Clinical usefulness of anti-RNA polymerase III antibody measurement by enzyme-linked immunosorbent assay	Rheumatology (Oxford)	48(12)	1570-4	2009
<u>Mimori T</u>	Mechanisms of production and pathogenesis of autoantibodies	Sysmex Journal International	19 (suppl.1)	19-24	2009
Kobayashi K, Okamoto Y, Inoue H, Usui T, Ihara M, Kawamata J, Miki Y, <u>Mimori T</u> , Tomimoto H, Takahashi R:	Leukoencephalopathy with cognitive impairment following tocilizumab for the treatment of rheumatoid arthritis (RA)	Intern Med	48(15)	1307-9	2009
Fujii T, Okada M, Fujita Y, Sato T, Tanaka M, Usui T, Umehara H, <u>Mimori T</u>	Vaccination with autoreactive CD4(+) ⁺ Th1 clones in lupus-prone MRL/Mp-Fas(lpr/lpr) mice.	J Autoimmun.	33(2)	125-34	2009
Ito Y, Usui T, Kobayashi S, Iguchi-Hashimoto M, Ito H, Yoshitomi H, Nakamura T, Shimizu M, Kawabata D, Yukawa N, Hashimoto M, Sakaguchi N, Sakaguchi S, Yoshifuji H, Nojima T, Ohmura K, Fujii T, <u>Mimori T</u>	Gamma/delta T cells are the predominant source of interleukin-17 in affected joints in collagen-induced arthritis, but not in rheumatoid arthritis	Arthritis Rheum	60(8)	2294-303	2009
Kyogoku C, Morinobu A, Nishimura K, Sugiyama D, Hashimoto H, Tokano Y, <u>Mimori T</u> , Terao C, Matsuda F, Kuno T, Kumagai S.	Lack of association between tyrosine kinase 2 (TYK2) gene polymorphisms and susceptibility to SLE in a Japanese population	Mod Rheumatol	19(4)	401-6	2009

Kitaori T, Ito H, Yoshitomi H, Aoyama T, Fujii T, Mimori T, Nakamura T	Severe erosive arthropathy requiring surgical treatments in systemic lupus erythematosus	Mod Rheumatol.	19(4)	431-6	2009
Kondo T, Inoue H, Usui T, Mimori T, Tomimoto H, Vermino S, Takahashi R	Autoimmune autonomic ganglionopathy with Sjögren's syndrome: significance of ganglionic acetylcholine receptor antibody and therapeutic approach.	Auton Neurosci	146(1-2)	33-5	2009
川端大介, 三森経世	最近の膠原病学の発展	Clinical Neuroscience	28(2)	146-148	2010
伊藤能永, 三森経世	γ δ T細胞によるIL-17の産生とその意義	臨床免疫・アレルギー科	52(6)	664-668	2009
三森経世, 井村嘉孝	自己免疫疾患とRNA	PNE 蛋白質 核酸 酵素	54(16)	2233-2238	2009
三森経世	関節破壊抑制のために生物学的製剤をどう使いますか?	Arthritis - 運動器疾患と炎症 -	7(3)	195-201	2009
三森経世	全身性エリテマトーデス	Cefiro	10	15-18	2009
三森経世	核抗原に対する自己抗体	医学のあゆみ	230(9)	698-703	2009
藤井隆夫, 三森経世, 小林民雄, 山下雅樹, 恒川伸二, 藤井義久, 清水喜久男	抗U1RNP抗体と抗Sm抗体 - 改良型ELISAについて -	リウマチ科	41(5)	459-463	2009
三森経世	関節リウマチ-薬物療法 DMARDs	臨床と研究	86(6)	717-720	2009
藤井隆夫, 岡本洋子, 小林勝哉, 井上治久, 高橋良輔, 三森経世	生物学的製剤は進行性多巣性白質脳症(PML)を誘発するか?	内科	103(4)	725-728	2009
三森経世	ステロイド	臨床研修プラクティス	6(6)	26-31	2009
湯川尚一郎, 三森経世	寛解・治癒を目指すための診断法 - 特に関節リウマチの早期診断における抗CCP抗体の有用性について -	最新医学	64(5)	981-987	2009
三森経世	関節リウマチ	薬局増刊号「病氣と薬 パーフェクトBOOK2009」	60(4)	670-677	2009
三森経世	関節リウマチ薬物療法のガイドラインとその検証	日本内科学会雑誌	98(3)	491-495	2009
湯川尚一郎, 三森経世	抗リウマチ薬の関節破壊抑制効果	CLINICAL CALCIUM	19(3)	395-403	2009
三森経世	免疫抑制薬	日本臨牀	67(3)	582-587	2009
Fujita Y, Fujii T, Nakashima R, Tanaka M, Mimori T	Aseptic meningitis in mixed connective tissue disease: cytokine and anti-U1RNP antibodies in cerebrospinal fluids from two different cases	Mod Rheumatol	18(2)	184-188	2008
Jin ZX, Huang GR, Dong L, Goda S, Kawanami T, Sawaki T, Sakai T, Tong XP, Masaki Y, Fukushima T, Tanaka M, Mimori T, Tojo H, Bloom ET, Okazaki T, Umehara H	Impaired TCR signaling through dysfunction of lipid rafts in sphingomyelin synthase 1(SMS1)-knockdown T cells	International Immunology	20(11)	1427-1437	2008
Atsumi T, Horita T, Mimori T, Koike T	Exchange of Information in Rheumatology Between East and West-From Man'yo-shu to the Future	Arthritis Rheum	58(2)	140-142	2008
三森経世	プライマリケアにおける関節痛の鑑別と治療	日本医事新報	4407	64-67	2008
三森経世	抗炎症薬とステロイド薬	日本内科学会雑誌	97(10)	17-22	2008
三森経世	関節炎鑑別に役立つ全身所見～見てわかる関節炎のポイント	Frontiers in Rheumatology & Clinical Immunology	2(4)	4-6	2008
村上孝作, 藤井隆夫, 三森経世	リウマトイド因子・抗CCP抗体が陽性・陰性の臨床的意義	medicina	45(1)	64-67	2008
三森経世	関節リウマチ	薬局増刊号「病氣と薬 パーフェクトBOOK2008」	59(4)	1190-1194	2008
三森経世	RA診療における臨床検査 - 従来検査とこれからの新しい臨床検査	リウマチクリニック	7	4-7	2008
大村浩一郎, 三森経世	抗CCP抗体の臨床的意義	炎症と免疫	16(2)	215-22	2008
三森経世	膠原病の治療 - 免疫抑制薬使用の実際	日本内科学会雑誌	97(3)	80-85	2008
湯川尚一郎, 三森経世	関節リウマチの早期診断における抗CCP抗体の有用性	リウマチ科	39(3)	204-212	2008
三森経世	SLEの難治性病態の克服に向けて	最新医学	63(5)	889-895	2008
吉藤 元, 三森経世	抗アミノシルtRNA合成酵素抗体症候群	臨床検査	52(5)	525-530	2008
三森経世	日内変動を考慮したステロイド徐放製剤の有用性	The Mainichi Medical Journal	4(7)	567	2008
佐藤 毅, 藤井隆夫, 三森経世	自己抗体の病因, 臨床的意義	Medical Practice	25(8)	1377-1380	2008
三森経世	生物学製剤	臨床研修プラクティス	5(9)	106-107	2008
三森経世	全身性自己免疫疾患における難治性病態の治療開発	Inflammation and Regeneration	28(5)	421-422	2008
村上孝作, 三森経世	リウマトイド因子, 抗CCP抗体の臨床的意義	EBMジャーナル	9(4)	22-26	2008
中嶋 蘭, 三森 経世	診断マーカーの最近の進歩	整形外科	59(8)	844-849	2008
Sato T, Fujii T, Yokoyama T, Fujita Y, Imura Y, Yukawa N, Kawabata D, Nojima N, Ohmura K, Usui T, Mimori T	Anti-U1 RNP antibodies in cerebrospinal fluid are associated with central neuropsychiatric manifestations in systemic lupus erythematosus and mixed connective tissue disease.	Arthritis Rheum	62	3730-3740	2010

Nakashima R, Imura Y, Kobayashi S, Yukawa N, Yoshifuji H, Nojima T, Kawabata D, Ohmura K, Usui T, Fujii T, Okawa K, Mimori T	The RIG-I-like receptor IFIH1/MDA5 is a dermatomyositis-specific autoantigen identified by the anti-CADM-140 antibody.	Rheumatology	49	433-440	2010
Ohmura K, Terao C, Maruya E, Katayama M, Matoba K, Shimada K, Murasawa A, Honjo S, Takasugi K, Tohma S, Matsuo K, Tajima K, Yukawa N, Kawabata D, Nojima T, Fujii T, Yamada R, Saji H, Matsuda F, Mimori T	Anti-citrullinated peptide antibody-negative RA is a genetically distinct subset: a definitive study using only bone-erosive ACPA-negative rheumatoid arthritis.	Rheumatology	49	2298-2304	2010
藤井 隆夫	膠原病の分子標的と制御のアプローチ. 混合性結合組織病における肺高血圧症治療とその標的分子. 膠原病-病態への新たなアプローチと治療展開-	最新医学	65	993-998	2010
藤井 隆夫	免疫抑制薬の臨床応用実証論. 第25回. 混合性結合組織病.	炎症と免疫	18	197-202	2010
Fujii T, Okada M, Fujita Y, Sato T, Tanaka M, Usui T, Umehara H, Mimori T	Vaccination with autoreactive CD4+Th1 clones in lupus-prone MRL/Mp-Faslpr/lpr mice.	J Autoimmunity	33	123-134	2009
Ito Y, Usui T, Kobayashi S, Iguchi-Hashimoto M, Ito H, Yoshitomi H, Nakamura T, Shimizu M, Kawabata D, Yukawa N, Hashimoto M, Sakaguchi N, Sakaguchi S, Yoshifuji H, Nojima T, Ohmura K, Fujii T, Mimori T	$\gamma\delta$ T cells are the predominant source of IL-17 in the affected joints of collagen-induced arthritis, but not in rheumatoid arthritis.	Arthritis Rheum	60	2294-2303	2009
Mii S, Fujii T, et al.	A histopathologic study of mechanic's hands associated with dermatomyositis: a report of five cases.	Int J Dermatol	48	1117-1182	2009
藤井隆夫, 三森経世, 小林民雄, 山下雅樹, 恒川伸二, 藤井義久, 清水喜久男	リウマチ性疾患の診療で行われる臨床検査. 抗U1RNP抗体と抗Sm抗体?改良型ELISAについて?	リウマチ科	41	459-463	2009
Fujita Y, Fujii T, Nakashima R, Tanaka M, Mimori T	Aseptic meningitis in mixed connective tissue disease: cytokine and anti-U1RNP antibodies in cerebrospinal fluids from two different cases.	Mod Rheumatol	18	184-188	2008
Takamiya M, Fujita S, Niitsu H, Aoki Y, Kanno H, Sawai T	A Case of Takayasu arteritis complicated by right atrium perforation and injuries of the right common iliac artery and vein caused by cannulation for percutaneous cardiopulmonary support.	Am J Forensic Med Pathol.	31(1)	72-76	2010
Yamauchi K, Sasaki N, Niisato M, Kamataki A, Shikanai T, Nakamura Y, Kobayashi H, Suwabe A, Kanno H, Sawai T and Inoue H	Analysis of pulmonary allergic vasculitis with eosinophil infiltration in asthma model of mice.	Exp Lung Res.	36	227-236	2010
Kurose R, Ichinohe S, Tajima G, Horiuchi S, Kurose A, Sawai T, Shimamura T	Characterization of human synovial fluid cells of 26 patients with osteoarthritis knee for cartilage repair therapy.	Int J Rheum Dis.	13(1)	68-74	2010
三又義訓, 鎌滝章央, 及川伸也, 村上賢也, 澤井高志	関節リウマチ患者由来の線維芽細胞様滑膜細胞に対するIL-6刺激による蛋白分解酵素ADAMTS-4とADAMTS-5の発現の変化の解析.	岩手医誌	62(2)	85-94	2010
及川伸也, 鎌滝章央, 三又義訓, 村上賢也, 澤井高志	関節リウマチ滑膜におけるBv8の発現.	岩手医誌	62(1)	37-45	2010
石黒直樹, 岩館克治, 澤井高志	実験的変形性膝関節症に対する高分子量ヒアルロン酸(平均分子量270万HA)スベニールと架橋型ヒアルロン酸(Hylan G-F20)SYNVISCの作用比較.	関節外科	29(12)	112-124	2010
佐々木信人, 鎌滝章央, 澤井高志	全身性強皮症および類似疾患, 肺病理.	日本胸部臨床	69(3)	224-233	2010
村上賢也, 鎌滝章央, 佐々木信人, 澤井高志	関節破壊の病理組織学的特徴.	日本臨床68(増刊号5)「関節リウマチ(第2版)-寛解を目指す治療の新時代-」		65-70	2010
宇月美和, 鎌滝章央, 佐々木喜子, 徳永勢二, 澤井高志	関節リウマチにおけるヒアルロン酸の合成と分解について.	臨床リウマチ	22	337-343	2010
Yamashita M, Iwama N, Date F, Chiba R, Ebina M, Miki H, Yamauchi K, Sawai T, Nose M, Sato S, Takahashi T, Ono M	Characterization of idiopathic diffuse alveolar damage.	Hum Pathol.	40	542~551	2009
Yoshida W, Uzuki M, Nishida J, Shimamura T, Sawai T	Examination of in vivo gelatinolytic activity in rheumatoid arthritis synovial tissue using newly developed in situ zymography and image analyzer.	Clin Exp Rheumatol.	27	587~593	2009

Sato Y, Kurose A, Ogawa A, Ogasawara K, Traganos F, Darzynkiewicz Z and Sawai T	Diversity of DNA damage response of astrocytes and glioblastoma cell lines with various p53 status to treatment with etoposide and temozolomide.	Cancer Biol Ther.	8	1~6	2009
鎌滝章央, 佐々木信人, 澤井高志	MCTD患者に合併する肺高血圧症の病変とその発症機序の解析.	自己抗体と自己免疫2009		31~35	2009
Watabe D, Kanno H, Inoue-Narita T, Onodera H, Izumida W, Kowada S, Sawai T and Akasaka T	A case of primary cutaneous natural killer/T-cell lymphoma, nasal type, with indolent clinical course: monoclonal expansion of Epstein-Barr virus genome correlating with the terminal aggressive behavior.	Br J Dermatol.	160(1)	205~7	2009
Shimizu N, Yoshikawa N, Wada T, Handa H, Sano M, Fukuda K, Suematsu M, Sawai T, Morimoto C and Tanaka H	Tissue- and context-dependent modulation of hormonal sensitivity of glucocorticoid-responsive genes by hexamethylene bisacetamide-inducible protein 1.	Mol Endocrinol.	22(12)	2609~2623	2008
澤井高志, 三浦康宏, 宇月美和	学会発表講座 リウマチ性疾患における病理組織画像のプレゼンテーション.	Frontiers in Rheumatology&Clinical Immunology.	2(3)	168?73	2008
澤井高志	RAの関節破壊における病理学的特徴.	Frontiers in Rheumatology&Clinical Immunology.	2(3)	124?7	2008
宇月美和, 佐々木喜子, 澤井高志	RAにおける骨・軟骨破壊の病理学的特徴.	Rheumatology Clinical Update.	15	7?10	2008
佐々木信人, 馬場俊右, 高橋 進, 伊藤晴方, 古和田浩子, 鹿内俊樹, 中村豊, 山内広平, 井上洋西, 澤井高志	人工流産および薬疹後に全身性エリテマトーデスが発症した1例.	アレルギー	57(7)	872?7	2008
Kawahata K, Kanzaki K, Imamura M, Akahira L, Michishita K, Dohi M, Yamamoto K.	Regulatory T cells in the control of T cell homeostasis.	Inflammation and Regeneration.	30	502-507	2010
川畑仁人	自己抗体による中枢神経疾患	感染・炎症・免疫	41		2011
川畑仁人	基本的診療技能: 神経学的所見のとおり方	分子リウマチ	3	38-46	2010
川畑仁人	セルトリスマブの有効性と安全性	リウマチ科	44	25-29	2010
川畑仁人	治療をめざしたタクロリムスの使い方	医学の歩み	234	78-81	2010
川畑仁人	アバタセプト	Pharma Medica	28	43-47	2010
川畑仁人	関節リウマチの最新の治療	臨床病理レビュー	145	p8-13	2010
川畑仁人	自己免疫疾患の最近の知見	臨床病理レビュー	145	p1-7	2010
Gono T, Kawaguchi Y, Hara M, Masuda I, Katsumata Y, Shinozaki M, Ota Y, Ozeki E, Yamanaka H	Increased ferritin predicts development and severity of acute interstitial lung disease as a complicated of dermatomyositis	Rheumatology	49	1354-1360	2010
Gono T, Kawaguchi Y, Satoh T, Kuwana M, Katsumata Y, Takagi K, Masuda I, Tochimoto A, Baba S, Okamoto Y, Ota Y, Yamanaka H	Clinical Manifestation and prognostic factor in anti-Melanoma Differentiation-Associated Gene 5 antibody-associated interstitial lung disease as a complication of dermatomyositis	Rheumatology	49	1713-1719	2010
Sugiura T, Kawaguchi Y, Soejima M, Katsumata Y, Gono T, Baba S, Kawamoto M, Murakawa Y, Yamanaka H, Hara M	Increased HGF and c-Met in muscle tissues of polymyositis and dermatomyositis patients: Beneficial roles of HGF in muscle regeneration	Clin Immunol	136	387-399	2010
Gono T, Kawaguchi Y, Sugiura T, Ichida H, Takagi K, Katsumata Y, Hanaoka M, Okamoto Y, Ota Y, Yamanaka H	Interleukin-18 is a key mediator in dermatomyositis: potential contribution to development of interstitial lung disease	Rheumatology	49	1878-1881	2010
Ota Y, Kawaguchi Y, Takagi K, Tochimoto A, Kawamoto M, Katsumata Y, Gono T, Masuda I, Ikari K, Momohara S, Yamanaka H	Single nucleotide polymorphisms of CD244 gene predispose to renal and neuropsychiatric manifestations with systemic lupus erythematosus	Modern Rhumatol	20	427-431	2010
Gono T, Kawaguchi Y, Sugiura T, Furuya T, Kawamoto M, Hanaoka M, Yamanaka H	Interferon-induced helicase (IFIH1) polymorphism with systemic lupus erythematosus and dermatomyositis/polymyositis	Modern Rhumatol	20	466-470	2010
Ito I, Kawaguchi Y, Kawasaki A, Hasegawa M, Ohashi J, Kawamoto M, Fujimoto M, Takehara K, Sato S, Hara M, Tsuchiya N	Association of the FAM167A-BLK region with systemic sclerosis	Arthritis Rheum	62	890-895	2010
Shen N, Fu Q, Deng Y, Qian X, Zhao J, Kaufman KM, Tang Y, Chen J-Y, Yang W, Wong M, Kawasaki A, Tsuchiya N, Sumida T, Kawaguchi Y, Yu C-Y, Howe HS, Mok MY, Bang SY, Liu F-L, Chang D-M, Takasaki Y, Hashimoto H, Harley JB, Guthridge JM, Grossman JM, Cantor RM, Song YW, Bae S-C, Chen	Gender Specific Association of X-linked TLR7 with Male Systemic Lupus Erythematosus	Proc Natl Acad Sci USA	107	15838-15843	2010

Katsumata Y, Harigai M, <u>Kawaguchi Y</u> , Fukasawa C, Soejima M, Kanno T, Takagi K, Ichida H, Tochimoto A, Nishimura K, Yamada T, Yamanaka H, Hara M	Diagnostic reliability of magnetic resonance imaging for central nervous system syndromes in systemic lupus erythematosus: a prospective cohort study	BMC Musculoskeletal Disorders	11	13	2010
Nishimoto K, Kochi Y, Ikari K, Yamamoto K, Suzuki A, Shimane K, Nakamura Y, Yano K, Iikuni N, Tsukahara S, Kamatani N, Okamoto H, Kaneko H, <u>Kawaguchi Y</u> , Hara M, Toyama Y, Horiuchi T, Tao K, Yasumoto K, Hamada D, Yasui N, Inoue H, Itakura M, Yamanaka H, Momohara S	Association study of TRAF1-C5 polymorphisms with susceptibility to rheumatoid arthritis and systemic lupus erythematosus in Japanese	Ann Rheum Dis	69	368-373	2010
<u>Kawaguchi Y</u> , Nakamura Y, Matsumoto I, Nishimagi E, Kamatani N, Satoh T, Kuwana M, Sumida T, Hara N	Muscarinic-3 Acetylcholine Receptor Autoantibody in Patients with Systemic Sclerosis: Contribution to Severe Gastrointestinal Tract Dysmotility.	Ann Rheum Dis	68	710-714	2009
<u>Kawaguchi Y</u> , Ota Y, Kawamoto M, Ito I, Tsuchiya N, Sugiura T, Katsumata Y, Soejima M, Sato S, Hasegawa M, Fujimoto M, Takehara K, Kuwana M, Yamanaka H, Hara M	Association study of a polymorphism of the CTGF gene and susceptibility to systemic sclerosis in the Japanese population	Ann Rheum Dis	68	1921-1924	2009
Ito I, <u>Kawaguchi Y</u> , Kawasaki A, Hasegawa M, Ohashi J, Hikami K, Kawamoto M, Fujimoto M, Takehara K, Sato S, Hara M, Tsuchiya N	Association of a functional polymorphism in IRF5 region with systemic sclerosis in a Japanese population	Arthritis Rheum	60	1845-1850	2009
Tsuchiya N, Kawasaki A, Hasegawa M, Fujimoto M, Takehara K, <u>Kawaguchi Y</u> , Kawamoto M, Hara M, Sato S	Association of STAT4 polymorphism with systemic sclerosis	Ann Rheum Dis	68	1375-1376	2009
Soejima M, <u>Kawaguchi Y</u> , Hara M, Kamatani N	Prospective study of the association between NAT2 gene haplotypes and severe adverse events with sulphasalazine therapy in patients with rheumatoid arthritis	J Rheumatol	35	724-725	2008
Sumita Y, Sugiura T, <u>Kawaguchi Y</u> , Baba S, Soejima M, Murakawa Y, Hara M, Kamatani N	Genetic polymorphisms in the surfactant proteins in systemic sclerosis in Japanese: T/T genotype at 1580 C/T (Thr131Ile) in the SP-B gene reduces the risk of interstitial lung disease	Rheumatology	47	289-291	2008
Kobayashi S, Ikari K, Kaneko H, Kochi Y, Yamamoto K, Shimane K, Nakamura Y, Toyama Y, Mochizuki T, Tsukahara S, <u>Kawaguchi Y</u> , Terai C, Hara M, Tomatsu T, Yamanaka H, Horiuchi T, Tao K, Yasutomo K, Hamada D, Yasui N, Inoue H, Itakura M, Okamoto H, Kamatani N, Momohara S	Association of STAT4 with susceptibility to rheumatoid arthritis and systemic lupus erythematosus in Japanese	Arthritis Rheum	58	1940-1946	2008
Oishi T, Iida A, Otsubo S, Kamatani Y, Usami M, Takei T, Uchida K, Tsuchiya K, Saito S, Ohnisi Y, Tokunaga K, Nitta K, <u>Kawaguchi Y</u> , Kamatani N, Kochi Y, Shimane K, Yamamoto K, Nakamura Y, Yumura W, Matsuda K	A functional SNP in the NKX2.5-binding site of ITPR3 promoter is associated with susceptibility to systemic lupus erythematosus in Japanese population	J Human Genet	53	151-162	2008
Kamatani Y, Matsuda K, Ohishi T, Ohtsubo S, Yamazaki K, Iida A, Hosono N, Kubo M, Yumura W, Nitta K, Katagiri T, <u>Kawaguchi Y</u> , Kamatani N, Nakamura Y	Identification of a significant association of a single nucleotide polymorphism in TNXB with systemic lupus erythematosus in a Japanese population	J Human Genet	53	64-73	2008
Ohnuma K, Hosono O, Katayose T, Yoshikawa N, Kawasaki H, Fujii T, Oyaizu N, <u>Tanaka H</u> , Morimoto C	Microscopic polyangiitis initiated with liver dysfunction, calf pain and fever of unknown origin.	Rheumatol Int.	30(12)	1651-6	2010
Fukazawa T, Maeda Y, Matsuoka J, Ono T, Mominoki K, Yamatsuji T, Shigemitsu K, Morita I, Murakami I, <u>Tanaka H</u> , Durbin ML, Naomoto Y.	Targeting KRAS mutation-bearing lung cancer in vivo by pulmonary surfactant-adenovirus-mediated gene transfer.	Anticancer Res.	30(12)	4925-35	2010
Shimizu N, Yoshikawa N, Ito N, Maruyama T, Suzuki Y, Takeda S, Nakae J, Tagata Y, Nishitani S, Takehana K, Sano M, Fukuda K, Suematsu M, Morimoto C, <u>Tanaka H</u> .	Crosstalk between Glucocorticoid Receptor and Nutritional Sensor mTOR in Skeletal Muscle.	Cell Metab.	13(2)	170-82	2011
Yo K, Iwata S, Hashizume Y, Kondo S, Nomura S, Hosono O, Kawasaki H, <u>Tanaka H</u> , Dang NH, Morimoto C.	SHP-2 inhibits tyrosine phosphorylation of Cas-L and regulates cell migration.	Biochem Biophys Res Commun.	382(1)	210-214	2009

Ohnuma K, Hosono O, Kawasaki H, Yoshikawa N, Katayose T, Oyaizu N, <u>Tanaka H</u> , Morimoto C.	An adult case of Henoch-Schönlein purpura complicating common peroneal nerve mononeuropathy.	Mod Rheumatol.	19(1)	73-79	2009
Yoshikawa N, Nagasaki M, Sano M, Tokudome S, Ueno K, Shimizu N, Imoto S, Miyano S, Suematsu M, Fukuda K, Morimoto C, <u>Tanaka H</u> .	Ligand-based gene expression profiling reveals novel roles of glucocorticoid receptor in cardiac metabolism.	Am J Physiol Endocrinol Metab.	296(6)	E1363-1373	2009
Tokudome S, Sano M, Shinmura K, <u>Matsuhashi T</u> , Morizane S, Moriyama H, Tamaki K, Hayashida K, Nakanishi H, Yoshikawa N, Shimizu N, Endo J, Katayama T, Murata M, Yuasa S, Kaneda R, Tomita K, Eguchi N, Urade Y, Asano K, Utsunomiya Y, Suzuki T, Taguchi R, <u>Tanaka H</u> , Fukuda K.	Glucocorticoid protects rodent hearts from ischemia/reperfusion injury by activating lipocalin-type prostaglandin D synthase-derived PGD2 biosynthesis.	J Clin Invest.	119(6)	1477-1488	2009
Hozawa S, Nakamura T, Nakano M, Adachi M, <u>Tanaka H</u> , Takahashi Y, Tetsuya M, Miyata N, Soma H, Hibi T.	Induction of matrix metalloproteinase-1 gene transcription by tumour necrosis factor alpha via the p50/p50 homodimer of nuclear factor-kappa B inactivated human hepatic stellate cells.	Liver Int.	28(10)	1418-1425	2008
Shibata S, Nagase M, Yoshida S, Kawarazaki W, Kurihara H, <u>Tanaka H</u> , Miyoshi J, Takai Y, Fujita T.	Modification of mineralocorticoid receptor function by Rac1 GTPase: implication in proteinuric kidney disease.	Nat Med.	14(12)	1370-1376	2008
Shimizu N, Yoshikawa N, Wada T, Handa H, Sano M, Fukuda K, Suematsu M, Sawai T, Morimoto C, <u>Tanaka H</u> .	Tissue- and context-dependent modulation of hormonal sensitivity of glucocorticoid-responsive genes by hexamethylene bisacetamide-inducible protein 1.	Mol Endocrinol.	22(12)	2609-2623	2008
Yamochi T, Ohnuma K, Hosono O, <u>Tanaka H</u> , Kanai Y, Morimoto C.	SSA/Ro52 autoantigen interacts with Dcp2 to enhance its decapping activity.	Biochem Biophys Res Commun.	370(1)	195-199	2008
Kagawa T, Watanabe N, Mochizuki K, Numari A, Ikeno Y, Itoh J, <u>Tanaka H</u> , Arias JM, Mine T.	Phenotypic differences in PFIC2 and BRIC2 correlate with protein stability of mutant Bsep and impaired taurocholate secretion in MDCK II cells.	Am J Physiol Gastrointest Liver Physiol.	294(1)	G58-67	2008
Yamashita T, Ohneda O, Nagano M, Iemitsu M, Makino Y, <u>Tanaka H</u> , Miyauchi T, Goto K, Ohneda K, Fujii-Kuriyama Y, Poellinger L, Yamamoto M.	Abnormal heart development and lung remodeling in mice lacking the hypoxia-inducible factor-related basic helix-loop-helix PAS protein NEPAS.	Mol Cell Biol.	28(4)	1285-1297	2008
Akira Ishikawa, Kazuo Nishi, Shunsei Hirohata, <u>Jun Okada</u>	Efficacy of serum angiopoietin-1 measurement in diagnosis of early rheumatoid arthritis	Clin Exp Rheumatol	in press		2011
Takayama Y, Hikawa S, <u>Okada J</u> , Sunakawa K, Akahoshi T.	A foodborne outbreak of a group A streptococcal infection in a Japanese university hospital.	Eur J Clin Microbiol Infect Dis	28	305-308	2009
<u>岡田 純, 和田達彦</u>	MESACUP-3テストSmおよびMESACUP-2テストSmの臨床的有用性の比較検討	医学と薬学	60	349-353	2008
<u>高橋裕子, 越智久さこ, 柳井敦, 山下裕之, 伊藤健司, 三森明夫</u>	10年間持続した活動性がTocilizumab治療で寛解した成人発症Still病の1例	日内会誌	99	130-132	2010
Muto G, Takahashi Y, Yamashita H, <u>Mimori A</u> .	A patient with intravascular lymphoma presenting with cerebral infarction and a high serum MPO-ANCA level	Mod Rheumatol	Epub, Oct8	Epub, Oct8	2010
Kobayashi M, Takahashi Y, Yamashita H, Kaneko H, <u>Mimori A</u>	Benefit and a possible risk of tocilizumab therapy for adult-onset Still's disease accompanied by macrophage-activation syndrome	Mod Rheumatol	Epub, Aug26	Epub, Aug26	2010
Okudaira N, Iijima K, Koyama T, Minemoto Y, Kano S, <u>Mimori A</u> , Ishizaka Y	Induction of long interspersed nucleotide element-1 (L1) retrotransposition by 6-formylindolo [3,2-b] carbazole (FIGZ), a tryptophan photoproduct	Proc Natl Acad Sci USA	107	18487-92	2010
Takahashi Y, Haga S, Ishizaka Y, <u>Mimori A</u>	Autoantibodies to angiotensin converting enzyme 2 in patients with connective tissue diseases	Arthritis Res Ther	12	(3)R85	2010
Testempassi E, Kubota K, Ito K, Morooka M, Ito K, Masuda-Miyata Y, Yamashita H, Itoh K, <u>Mimori A</u> , Kuroki H	Constrictive tuberculous pericarditis diagnosed using 18F-fluorodeoxy- glucose positron emission tomography: a report of two cases	Ann Nucl Med	24	421-425	2010
Ito K, Kubota K, Morooka M, Hasuo K, Kuroki H, <u>Mimori A</u>	Clinical impact of 18F-FDG PET/CT on the management and diagnosis of infectious spondylitis	Nucl Med Commun	31	691-698	2010
Myouzen K, Kochi Y, Shimane K, Fujio K, Okamura T, Okada Y, Suzuki A, Atsumi T, Ito S, Takada K, <u>Mimori A</u> , Ikegawa S, Yamada R, Nakamura Y, Yamamoto K	Regulatory polymorphisms in EGR2 are associated with susceptibility to systemic lupus erythematosus.	Hum Mol Genet	19	2313-2320	2010

Takahashi Y, Mizoue T, Suzuki A, Yamashita H, Kunimatsu J, Itoh K, <u>Mimori A</u>	Time of initial appearance of renal symptoms in the course of systemic lupus erythematosus as a prognostic factor for lupus nephritis	Modern Rheumatol	19	293-301	2009
Kubota K, Ito K, Morooka M, Mitsumoto T, Kurihara K, Yamashita H, Takahashi Y, <u>Mimori A</u>	Whole-body FDG-PET/CT on rheumatoid arthritis of large joints	Ann Nucl Med	23	783-791	2009
Kaneko Y, Suwa A, Hirakata M, Ikeda Y, <u>Kuwana M</u>	Clinical associations with autoantibody reactivities to individual components of U1 small nuclear ribonucleoprotein	Lupus	19(3)	307-312	2010
Koreeda Y, Higashimoto I, Yamamoto M, Takahashi M, Kaji K, Fujimoto M, <u>Kuwana M</u> , Fukuda Y, Arimura K	Clinical and pathological findings of interstitial lung disease patients with anti-aminoacyl-tRNA synthetase autoantibodies	Intern Med	49(5)	361-369	2010
<u>Kuwana M</u>	Sensorineural hearing loss as a common manifestation in patients with mixed connective tissue disease	Int J Clin Rheumatol	5(2)	165-167	2010
Yamaguchi Y, Takahashi H, Satoh T, Okazaki Y, Mizuki N, Takahashi K, Ikezawa Z, <u>Kuwana M</u>	Natural killer cells control a T helper 1 response in patients with Behçet's disease	Arthritis Res Ther	12(3)	R80	2010
Seta N, <u>Kuwana M</u>	Derivation of multipotent progenitors from human circulating CD14+ monocytes	Exp Hematol	38(7)	557-563	2010
Furuya Y, Satoh T, <u>Kuwana M</u>	Interleukin-6 as a potential therapeutic target for pulmonary arterial hypertension	Int J Rheumatol	2010	720305	2010
Gono T, Kawaguchi Y, Satoh T, <u>Kuwana M</u> , Katsumata Y, Takagi K, Masuda I, Tochimoto A, Baba S, Okamoto Y, Ota Y, Yamanaka H	Clinical manifestation and prognostic factor in anti-melanoma differentiation-associated gene 5 antibody-associated interstitial lung disease as a complication of dermatomyositis	Rheumatology	49(9)	1713-1719	2010
Sato S, <u>Kuwana M</u>	Clinically amyopathic dermatomyositis	Curr Opinion Rheumatol	22(6)	639-643	2010
Furuya Y, Okazaki Y, Kaji K, Sato S, Takehara K, <u>Kuwana M</u>	Mobilization of endothelial progenitor cells by intravenous cyclophosphamide in patients with systemic sclerosis: potential association with efficacy for interstitial lung disease	Rheumatology	49(12)	2375-2380	2010
Yamaguchi Y, Okazaki Y, Seta N, Satoh T, Takahashi K, Ikezawa Z, <u>Kuwana M</u>	Enhanced angiogenic potency of monocytic endothelial progenitor cells in patients with systemic sclerosis	Arthritis Res Ther	12(6)	R205	2010
Suzuki S, Utsugisawa K, Nagae Y, Satoh T, <u>Kuwana M</u> , Suzuki N	Clinical and immunological differences between early and late-onset myasthenia gravis in Japan	J Neuroimmunol	230(1-2)	148-152	2011
Hamaguchi Y, <u>Kuwana M</u> , Hoshino K, Hasegawa M, Kaji K, Matsushita T, Komura K, Nakamura M, Koderia M, Suga M, Higashi A, Ogusu K, Tsutusi K, Furusaki A, Tanabe H, Sasaoka S, Muro Y, Yoshikawa M, Ishiguro N, Ayano M, Muroi E, Fujikawa K, Umeda Y, Kawase M, Mabuchi E, Asano Y, Sodemoto K, Seishima M, Yamada H, Sato S, Takehara K, Fujimoto M	Clinical correlations with dermatomyositis-specific autoantibodies in adult Japanese patients with dermatomyositis: a multi-centre, cross-sectional study	Arch Dermatol			In press
Gono T, Kawaguchi Y, Ozeki E, Ota Y, Satoh T, <u>Kuwana M</u> , Hara M, Yamanaka H	Serum ferritin correlates with activity of anti-MDA5 antibody-associated acute interstitial lung disease as a complication of dermatomy	Mod Rheumatol			In press
Noda S, Asano Y, Tamaki Z, Hirabayashi M, Yamamoto M, Takekoshi T, Hoashi T, Sugaya M, Morimoto R, Eto T, Kaji K, Fujimoto M,	Dermatomyositis with anti-OJ antibody	Rheumatol Int			In press
Kobayashi I, Okura Y, Yamazaki Y, Takezaki S, Yamada M, Kawamura N, <u>Kuwana M</u> , Ariga T	Anti-CADM-140/MDA5 antibody in juvenile dermatomyositis complicated with interstitial lung disease	J Pediatr			In press
Kaneko Y, Kuwana M, Kameda H, Takeuchi T	Sensitivity and specificity of 2010 rheumatoid arthritis classification criteria	Rheumatology			In press
Hara S, Henmi T, Kawakami A, Fujikawa K, Mukae H, Ishimatsu Y, Sakamoto N, Kakugawa T, Kaji K, Fujimoto M, <u>Kuwana M</u> , Tsukada T, Satoh K, Motomura M, Tamai M, Nakamura H, Ida H, Hayashi T,	Clinical, serologic and magnetic resonance imaging of 3 cases of inflammatory myopathy with abundant macrophages in the Japanese population	Rheumatol Int			In press

桑名正隆	研修医のための膠原病診療ガイド(各論: 頻度の高い膠原病); 強皮症	臨床研修プラクティス	7(3)	38-44	2010
桑名正隆	神経膠原病各論: 神経内科医から、膠原病科医から; 抗リン脂質抗体症候群: 膠原病科から	Clinical Neuroscience	28(2)	215-218	2010
桑名正隆	関節リウマチ(第2版) - 関節リウマチの類縁疾患とその鑑別診断; RS3PE	日本臨床	68(5 suppl)	584-587	2010
桑名正隆	抗TNFα療法の適応拡大-関節リウマチ以外の疾患治療に向けて-; ペーチェット病	分子リウマチ治療	3(2)	61-64	2010
桑名正隆	肺動脈性肺高血圧症: 膠原病と肺動脈性肺高血圧症	循環器内科	67(5)	545-550	2010
桑名正隆	第4回瘰癧・ケロイド治療研究会パネルディスカッション「臓器別線維化疾患の治療戦略-線維化疾患という観点からケロイドを考える-」; 強皮症の新たな治療戦略	瘰癧・ケロイド治療ジャーナル	4	31-34	2010
桑名正隆	広範囲 血液・尿化学検査、免疫学的検査(3) -その数値をどう読むか-; 免疫学的検査; 自己抗体; 抗RNAポリメラーゼ抗体	日本臨床	68(6 suppl)	537-540	2010
桑名正隆	広範囲 血液・尿化学検査、免疫学的検査(3) -その数値をどう読むか-; 免疫学的検査; 自己抗体; 抗トポイソメラーゼ抗体(抗Sc1-70抗体)	日本臨床	68(6 suppl)	545-547	2010
桑名正隆	ITP-最近の話題; ITP発症のメカニズム	日本血栓止血学会誌	21(3)	255-261	2010
桑名正隆	<i>Helicobacter pylori</i> 除菌治療の保険適応拡大; 特発性血小板減少性紫斑病の診療はどのように変わるか	Helicobacter Research	14(4)	292-296	2010
桑名正隆、白井悠一郎	リウマチ性疾患の画像診断と評価; 肺高血圧症の画像診断	リウマチ科	44(2)	173-180	2010
白井悠一郎、桑名正隆	肺高血圧症の臨床における最新薬物治療; 間質性肺炎患、肺高血圧症をともなった全身性強皮症の1例	Modern Physician	30 (suppl)	46-48	2010
桑名正隆	膠原病-新たな治療戦略; 膠原病診療の実際; 全身性硬化症	臨床と研究	87(9)	1209-1213	2010
桑名正隆	膠原病-その入り口から慢性期まで; 強皮症	診断と治療	98(10)	1621-1626	2010
巽浩一郎、桑名正隆、佐地勉、宮地克維	座談会; 肺動脈性肺高血圧症の薬物治療の最新展開	呼吸	29(10)	956-968	2010
桑名正隆、白井悠一郎、安岡秀剛	第11回肺高血圧症治療研究会シンポジウム: 肺高血圧症治療におけるPGI2経口薬の位置付け2; 膠原病性肺高血圧症に対するPGI2経口薬の使用経験	Therapeutic Research	31(10)	1433-1435	2010
桑名正隆	話題; 強皮症の早期診断	リウマチ科	44(4)	464-472	2010
桑名正隆	新規に保険収載された検査法; 抗RNAポリメラーゼIII抗体測定臨床的有用性	モダンメディア	56(11)	293-298	2010
桑名正隆	扉; 関節リウマチ-実地医家のための寛解を目指した診療ストラテジー	Medical Practice	27(12)	1991	2010
塚本昌子、安岡秀剛、桑名正隆	関節リウマチ-実地医家のための寛解を目指した診療ストラテジー; この症例から何を学ぶか; 関節リウマチに対してメトトレキサート治療中に全身にリンパ腫大が出現した高齢女性	Medical Practice	27(12)	2128-2132	2010
桑名正隆	総説; TNF阻害療法と悪性腫瘍	中部リウマチ	40(2)	55-59	2010
藤村欣吾、倉田義之、桑名正隆、池田康夫	新しい特発性(免疫性)血小板減少性紫斑病; 治療ガイドライン	臨床血液			印刷中
片岡哲、千葉高正、大石昌典、桑名正隆	診断に苦慮した新生児受動免疫性血小板減少症の1例	小児血液学会誌			印刷中
桑名正隆	診断・治療の進歩; ペーチェット病	内科			印刷中
桑名正隆	総説; 第72回日本血液学会学術集会シンポジウム4; 免疫性血小板減少症の病態	臨床血液			印刷中
Suzuki S, Suzuki N, Kuwana M	Comment on: Clinical utility of anti-signal recognition particle antibody in the differential diagnosis of myopathies: reply (letter)	Rheumatology	48(1)	90-91	2009
Suwa A, Hirakata M, Kaneko Y, Sato S, Suzuki Y, Kuwana M	Successful treatment of refractory polymyositis with the immunosuppressant mizoribine: Case report	Clin Rheumatol	28(2)	227-229	2009
Takahashi H, Kuwana M, Amagai M	A single helper T-cell clone is sufficient to commit polyclonal naïve B cells to produce pathogenic IgG in experimental pemphigus vulgaris	J Immunol	182(3)	1740-1745	2009

Kuwana M, Okazaki Y, Ikeda Y	Splenic macrophages maintain the anti-platelet autoimmune response via uptake of opsonized platelets in patients with immune thrombocytopenic purpura.	J Thromb Haemost.	7(2)	322-329	2009
Kuwana M	Autoantibodies to platelets: roles in thrombocytopenia	Inflam Regen	29(1)	40-46	2009
Satoh T, Pandey JP, Okazaki Y, Asahi A, Kawakami Y, Ikeda Y, Kuwana M	Single nucleotide polymorphism of interleukin-1 β associated with <i>Helicobacter pylori</i> infection in immune thrombocytopenic purpura	Tissue Antigens	73(4)	353-357	2009
Takada T, Hirakata M, Suwa A, Kaneko Y, Kuwana M, Ishihara T, Ikeda Y	Clinical and histopathological features of myopathies in Japanese patients with anti-SRP autoantibodies	Mod Rheumatol	19(2)	156-164	2009
Kawaguchi Y, Nakamura Y, Matsumoto I, Nishimaki, E, Satoh T, Kuwana M, Sumida T, Hara M	Muscarinic-3 acetylcholine receptor autoantibody in patients with systemic sclerosis: contribution to severe gastrointestinal tract dysmotility	Ann Rheum Dis	68(5)	710-714	2009
Nagata E, Hattori H, Kato M, Ogasawara S, Suzuki S, Shibata M, Shimizu T, Hamada J, Osada T, Takaoka R, Kuwana M, Tsunoda T, Aiso S, Takizawa S, Suzuki N, Takagi S	Identification of biomarkers associated with migraine with aura	Neurosci Res	64(1)	104-110	2009
Fujikawa K, Kawakami A, Kaji K, Fujimoto M, Kawashiri S, Iwamoto N, Aramaki T, Ichinose K, Tamai M, Kamachi M, Nakamura H, Ida H, Origuchi T, Ishimoto H, Mukae H, Kuwana M, Kohno S, Takehara K, Sato S, Eguchi K.	Association of distinctive clinical subsets with myositis-specific autoantibodies toward anti-155/140kD polypeptides, anti-140kD polypeptides, and anti-aminoacyl tRNA synthetases in patients with dermatomyositis of Japanese population: a single-center, cross-sectional study	Scand J Rheumatol	38(4)	1-5	2009
Arnold DM, Bernotas A, Nazi I, Stasi R, Kuwana M, Liu Y, Kelton JG, Crowther M	Platelet count response to <i>H. pylori</i> treatment in patients with immune thrombocytopenic purpura with and without <i>H. pylori</i> infection: a systematic review	Haematologica	94(6)	850-856	2009
Sato S, Hoshino K, Satoh T, Fujita T, Kawakami Y, Fujita T, Kuwana M	RNA helicase encoded by melanoma differentiation-associated gene 5 is a major autoantigen in patients with clinically amyopathic dermatomyositis: association with rapidly progressive interstitial lung disease	Arthritis Rheum	60(7)	2193-2200	2009
Fertig N, Domsic RT, Rodriguez-Reyna T, Kuwana M, Lucus M, Medsger TA Jr, Feghali-Bostwick CA	Anti-U11/U12 RNP antibodies in systemic sclerosis: A new serologic marker associated with pulmonary fibrosis	Arthritis Rheum	61(7)	958-965	2009
Matsuyama T, Kuwana M, Matsumoto M, Isonishi A, Inokuma S, Fujimura Y	Heterogeneous pathogenic processes of thrombotic microangiopathies in patients with connective tissue diseases	Thromb Haemost	102(2)	371-378	2009
Yoshida H, Ishida H, Yoshihara T, Kamesaki T, Kuwana M, Imamura T, Morimoto A	Complication of Evans' syndrome in an infant with hereditary spherocytosis: a case report	J Hematol Oncol	2	40	2009
Kuwana M, Okazaki Y, Kaburaki J	Long-term beneficial effects of statins on vascular manifestations in patients with systemic sclerosis	Mod Rheumatol	19(5)	530-535	2009
Suzuki S, Utsugisawa K, Yoshikawa H, Motomura M, Matsuyama S, Yokoyama K, Nagae Y, Maruta T, Satoh T, Sato H, Kuwana M, Suzuki N	Autoimmune targets to heart and skeletal muscles in myasthenia gravis	Arch Neurol	66(11)	1334-1338	2009
Kawaguchi Y, Ota Y, Kawamoto M, Ito I, Tsuchiya N, Sugiura T, Katsumata Y, Soejima M, Sato S, Hasegawa M, Fujimoto M, Takehara K, Kuwana M, Yamanaka H, Hara M	Association study of a polymorphism of the CTGF gene and susceptibility to systemic sclerosis in the Japanese population	Ann Rheum Dis	68(12)	1921-1924	2009
Seta N, Kobayashi S, Hashimoto H, Kuwana M	Characterization of autoreactive T-cell clones to myeloperoxidase in patients with microscopic polyangiitis and healthy individuals	Clin Exp Rheumatol	27(5)	826-829	2009
Satoh T, Ishikawa O, Ihn H, Endo H, Kawaguchi Y, Sasaki T, Goto D, Takahashi K, Takahashi H, Misaki Y, Mimori T, Muro Y, Yazawa N, Sato S, Takehara K, Kuwana M	Clinical usefulness of anti-RNA polymerase III antibody measurement by enzyme-linked immunosorbent assay	Rheumatology	48(12)	1570-1574	2009
桑名正隆	新しい抗血小板抗体検査	検査と技術	37(2)	123-128	2009
桑名正隆	日本人のヒット作品: <i>H.pylori</i> 除菌は単球におけるFc γ 受容体バランスを抑制に偏倚させることでITP病態を是正する	分子消化器病	6(1)	96-98	2009
桑名正隆	解説: 感染によって自己免疫疾患は誘導されるのか?	リウマチ科	41(2)	222-228	2009